



じとぜんひろば

No.71 2010年(平成22年)7月1日 地御前地区コミュニティ推進協議会

▼功労者表彰
円山 英和 (堀新町町内会長)
重富 欣治 (堀新町町内会長)
児玉 恒明 (福祉部部長)
▼新任役員
理事 (構成団体代表)
橋本 宗三 (地御前長寿連合会 会長)
岩成 博司 (野坂中学校PTA会長)
国木 弥生 (地御前保育園保護者クラブ)
千原 保仁 (町内会連絡協議会 会長)
顧問
日野 恵子 (地御前小学校 校長)
理事 (町内会会長)
藤川 亜矢 (県営住宅)
伊関 孝一 (扇園)
西村 辰馬 (金剛寺東)

去る五月十日(月)、地御前市民センターで開催された総会は、恒例の功労者表彰に続き前年度の事業・決算報告、本年度の事業計画・予算案等につき熱心に討議されすべての案件は承認されました。

2010年度「推協定時総会開催」

長門 朗 (要町)
藤井 正雄 (堀中町)
北野 晴三 (後町)
井原 公治 (堀之町)
中野 恵司 (鹿之子)
高橋 一寿 (桃山)
岸本 洋明 (田屋)
横山 稔 (港町)
向井 誠二 (新港)
津崎 義博 (エスティム地御前)
梶原 英樹 (三景園)
山崎 俊文 (緑ヶ丘)
沖村 仁 (野坂)
森永 幸男 (海晴丘)
玉岡 政人 (自由ヶ丘)
依山 徹 (ルミナス地御前駅前)
新町内会長さんです
よろしく
今年度新たに町内会長になられた十九名の皆様に挨拶をいただきました。



環境部のみなさんの手で綺麗に整備された花壇

桃山町内会
会長 高橋 一寿
桃山町在住、十二年。仕事や山登りで町内の方々と関

地域の皆様のご協力を頂き、会長のお重責をはたせたらと思っています。

「おはよう」「さようなら」と子ども達の元気な声が響く。地域で見かける爽やかな光景です。明るい挨拶は相手に勇気や喜びを捧げるプレゼント。「ありがたう」の感謝をこめた一声は、いちだんと温かい余韻を残します。「あいさつと笑顔」が、地御前の「地域のつながり」に広がる事を願っています。

鹿之子町内会
会長 中野 恵司
「おはよう」「さようなら」と子ども達の元気な声が響く。地域で見かける爽やかな光景です。明るい挨拶は相手に勇気や喜びを捧げるプレゼント。「ありがたう」の感謝をこめた一声は、いちだんと温かい余韻を残します。「あいさつと笑顔」が、地御前の「地域のつながり」に広がる事を願っています。

後町町内会

会長 北野 晴三

最近では、少子化、高齢化が進み色々な分野に於いてむずかしくなっています。子どもたちから、高齢者の方々まで、無理なく参加できる魅力ある事業が出来れば、皆が互いに人権を守り合い、と言う事を大切に、小さな輪から大きな輪をひろげ地域の活性化をめざし、心の窓を大きく広げ気軽に楽しい会話が出来る、活力ある住みよい町づくりが出来たら、そんな願望をもっております。

金剛寺東町内会

会長 西村 辰馬

先日、地区運動会に初めて参加し、玉入れ競技の可愛い孫たちと、爺ちゃん婆ちゃん

「地御前見て歩き」

地御前地区自主防災会

会長 千原 保仁

五月三十日、今年度の活動計画でもある、「地御前見て歩き」を実施しました。

地御前は自然災害の少ない地域と言われていますが、それでも弱みはあります。

市民センターの裏から通りでると、「この道路の下には今市川が流れています」「えっ、この下を川が？」と驚きの声

が聞かれました。当日、参加者に配布した地御前町内会区域マップには、水路の表示がしてあり、この地域の道路では下川が流れている場所が多々あるのが分かります。

防災公園は建設途中です。(来年三月末完成予定) この説明を受け、大神へ移動。

急斜面が崩壊し土砂となり、川をせき止める危険性を持っている地域です。(写真)

梅雨時期・台風など集中豪雨時は、警戒を要する地域とされています。

その後、堀新町の急傾斜地崩壊危険区域を見て、我迫のため池に行きました。ここは



危険箇所を視察する参加者たち

崩壊するようなことは過去になかったと聞いて少し安堵し、市民センターへ帰着しました。天候にも恵まれ、見て歩きは約二時間のコースでしたが、参加者の方からは、「地御前にこんな場所があるとは」、「地御前を少し詳しく知ることができ、参加して良かった」などの声が聞かれました。

ボランティア —企業の社会貢献—

地御前五丁目にある、株式会社中国ソリユーションズ宮島開発センター(藤野善武 管理)では、平成十六年から社員研修の一貫として毎月一回、浜辺の清掃を行い、広く地域との融和を図っています。

ふれあい御夜衣清掃ボランティア



研修中の社員のみなさん

六月九日(水)、地御前長寿連合会(会長 橋本宗三)による清掃が、早朝から大勢の会員が参加し行われました。また当日、地御前小学校四年生(藤本、酒見先生引率)の六三名も参加し、一時間あまり、ふれあい清掃作業を終え、すっかり祭りの準備が整いました。

回収されたゴミも同社の業者により処理されており、同社の崇高なコーポレート・ガバナンスが窺えます。我々住民も浜辺の使用に際しゴミの持ち帰りなど配慮して、住みよいきれいな町づくりにも努めましょう。

読者からの声

地御前小学校PTA

会長 桐林 潤

「じとぜんひろば」大変よみごたえがあり、とても興味深く、感動したり想像して笑ったりしながら、一気に読ませて頂きました。特に若宮さんのお書きになった記録は貴重だと思いました。当時の質素ながらも活気あふれる生活の様子を垣間見ることができ、本当に感動しました。是非とも後世の子どもたちに伝えたい、理解してもらいたい、想像してもらいたいと思います。(要訳)

編集後記

当広報部のスタッフです。よろしくお願ひします。

部長 矢吹 恭久

副部長 林 忠正

中村 泰雄

瀬良 英邦

尾本 政治

中野 晋

中野 恵司(新任)

▼「とうかさ」の帰りのJRの満員の車内で、中学生らしき生徒が二人、大きなゴルフバックを座席に置いて携帯に熱中していた。ゴルフ指導者の顔が見てみたい。恐らく明日の遠くを目標しているのであろうが、指導者からの教育が必要になったのだろうか？

市民センター新職員

池中 千代美



昨年十二月よりお世話になっております。地域の皆様に気持ちよく市民センターに来ていただけるように、努めたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

前回までのあらすじ、若宮さんが育った地御前の昭和十年代前半の暮らし、遊び、学校生活などを解説していただきました。

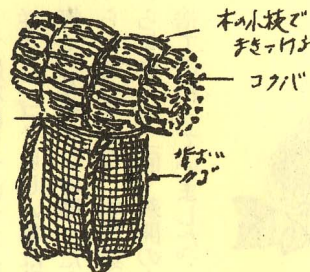
昔の思い出②

胡町 若宮 悟

当時は海が綺麗だったのでカブトガニやタツノオトシゴなども見ることができました。また、漁をする人が網にかかったマンボウを持ち帰り皆に見せてくれました、その後は酒を飲ませて、また沖に離してました。

焚物は「コクバさで」と言つて、山に行き、松葉が枯れて落ちていれるのを掻き集め、背負い籠に一杯入れ更に小さな木を切りそれを並べて上にコクバを置き寿司巻きにして縛った束を籠の上にせ固定し背負って帰ったものです(写真⑬)。コクバさでの場所は大神の池の上で、皆が毎日行くのでコクバも少なく、なかなか荷が出来ず苦労したものです。

また、家では内職(帽子の材料になるサンピラ編や、こも編み、むしろ編みなど)をしていて、その手伝いもさせられた。



写真⑬ コクバの荷造り方

6年生の頃には、水の取れない田圃があり、夏の暑いときにそばを流れている川からバケツで田圃に水を汲み上げさせられて居ましたが、バケツに二千杯以上も汲み上げないと田圃の隅々まで水が行き届かず大変でした。

楽しかったこと 四月三日の花見には弁当を作つて貰い、皆で丸子山や稲荷さんなど高いところに登つて食べていました。花はなくても弁当を食べるのが楽しみでした。

運動会のときは、昼に観覧席で家族揃つて食べた、当時の弁当は、今では日常食べている様なもので、巻き寿司・かまぼこ・ヨウカン(寒天を使って家で手作りしたもの)たまご焼きなどで、その頃はめつたに食べられない御馳走で、後はお客さんの来る、正月・花見・色んなお祭り・お盆くらいでした。

馬とばし(御陵衣祭・おかげんさん(管絃祭・十七夜)・秋祭

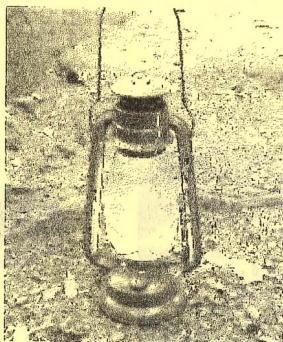
りには小遣いが貰えるので楽しかったです。

その他 昔の家はわら屋根が多かった。従つて国鉄のそばにある家は、当時蒸気機関車の煙突から煙と一緒に火の粉が飛び出し、わら屋根に落ちよく火災が発生しました。また、田舎から阿品にかけ鉄道沿線の山火事もよく有りました。

冬にはわら屋根の家は七十〜八十cm位の長いツララが下がったものです。

当時、電気は殆んどの家が定額で、二階建てなら下に二灯、二階に一灯で長いコードが付いていて、必要な部屋に引張り明かりを取つていた。又、時間が来ると自動的に点いたり消えたりしていた。金持ちの家ではメートルと言つて今と同じようにメートル器が付いていて自由に使用できた。しかし、小学校初め頃は、まだランプも使つていて、よくホヤ(ガラスの覆い)を磨かされていた。

(写真⑭)



写真⑭ 昔の灯油ランプ

新聞・ラジオも余り無く、家



地御前海岸電停跡

でも私が六年生の頃ラジオを買つて貰つたように思います。従つて情報も入らず、台風が来ても、おおよその雲行きで台風が来るのかなとは思つても大さきや何時に来るかなどはわからず、突然来るようなもので怖かった。

大蔵神社前の国鉄(今のJR)の踏切には遮断機が有り、その番をする人が居て(住む家も有つて)汽車が来ると遮断機の上げ下ろしをしていた。

地御前神社前には、広電の電車停留所があつて駅名は「地御前海岸」で夏の海水浴場が有る期間停車していた。

(写真⑮)

写真⑯ 昭和十三年、

地御前海岸で海水浴の為のバス電車往復乗車券



宮島電車乗車券 西廣島より 地御前海岸より 西廣島行 通期 昭和十三年九月五日限 乗車券 大人四十六銭	宮島電車乗車券 西廣島より 地御前海岸より 地御前海岸行 通期 昭和十三年九月五日限 乗車券 大人四十六銭	宮島電車乗車券 西廣島より 地御前海岸より 地御前海岸行 通期 昭和十三年九月五日限 乗車券 大人四十六銭	宮島電車乗車券 西廣島より 地御前海岸より 地御前海岸行 通期 昭和十三年九月五日限 乗車券 大人四十六銭
--	--	--	--

昭和十六年三月

地御前小学校 尋常科卒業

私たちのクラスから修学旅行が無くなった。そして今では立派な卒業アルバムがあるが、私達は全員で写った記念写真一枚だけであった。しかし、支那事変最中とは言いながら、私たちの小学校時代は教科書、教材などの不自由は余り感じなかった。

戦後は物資や食料が不足し、ゴム靴も無く、みんな「わらじ」を履いて学校に通っていました。また校庭も一時畑になりサツマイモなどを作っていた。

当時、観光道路(国道二号線)は車も余り通らず、祭りの俵揉みも何時でも横断でき、車の通りを気にすることは無かった。また、私のうちの田圃も観光道路下にありましたが、田圃がじり(水が多くてぬかるむ)ので、田圃で稲こぎが出来ず、観光道路にムシロをひいて稲こぎをしていました。

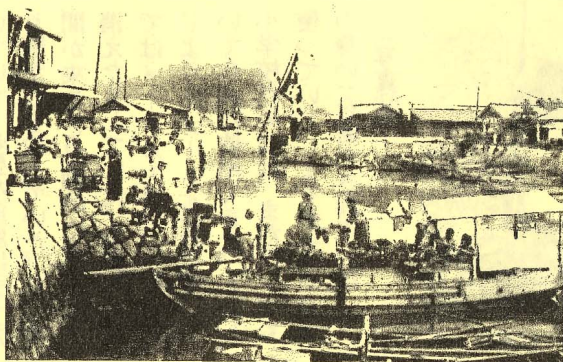
そして、地御前は昔からお医者さんに恵まれた所で、梶井歯科医院・長野医院(旧公民館横の駐車場)・塩谷医院(旧胡町の村上さんの所)・せいこう医院(山本文具店辺り)とたくさんさんの医院がありましたが、せいこの

う医院の先生が單車を新しく買って初めて乗ったところ停め方が分からなくて、岩国まで行ってガソリンが無くなり停まったと言う笑い話がありました。当時は信号機も無く、今思へば考えられないことばかりです。

昔の生活 子供の頃は、よく家の手伝いをさせられていました。

醤油は一升瓶を、酒は徳利を、豆腐はカゴを持って買いに行かれました。昔は全て入れ物を持って買い物をしていました。

トイレでは、チリ紙は無く新聞紙を切って紙籠に入れて置き、それを使用していました。新聞紙は余れば風呂やカマドの炊き付けに使っていました。炊き付けは主にコクバ(松葉)や木の小枝を使っていました。トイレの汚物は畑や、田圃の肥料となるので、畑や田圃を作っていない家から貰ったりしていました。海のヤツデも干して肥料にっていました。従って、ゴミらしい物は殆んど無く、瓦やビンの壊れたものくらいで、そんな物は集まった年に一・二回、新開の土手に捨てに行っていました。



写真⑭ 当時の地御前港の風景

写真⑭ 当時の地御前港の風景、写真手前の岸壁にスイカ売りの船が着いていた

家庭では、夏には冷蔵庫が無いので、ご飯はカゴに入れて涼しいところに置き腐るのを防止し、スイカなどは井戸に吊り下げて冷やしていました。

また、スイカは島から船で地御前港(写真⑭)に売りに来るので、父について猫車を引いて買いに行き、カマスに一杯幾らで買っていました。

米・野菜は家で作っていたので、不自由はしませんでした。

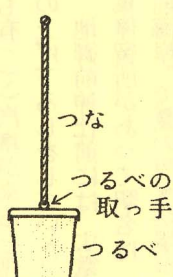
水の思い出

私達が子供の頃、飲み水は全て井戸水で、『つるべ』(写真⑮)を使い汲み上げていました。お金のいる家は『手押しポンプ』(写真⑯)をつけている所もありました。

勝谷酒造では酒を造る為に、沢山の水が必要としますので、『打ち抜き』と言って鉄のパイプを地下水脈まで打ち込み、水圧により水は常に湧き出ていました。



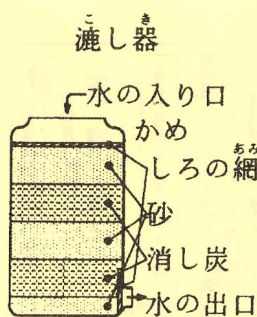
写真⑯ 手押しポンプ



写真⑮ つるべ

私の家の井戸水は鉄分が多く黄色い水でしたので、その水で洗濯をすると白い布はすぐに黄色くなってしまいました。そこで洗濯は道を挟んで前の家の井戸水を使わせて貰っていました。その家の水は透明で綺麗な水でした。少し位置が変わると水脈も変わり、水に違いが有るのです。

したがって、私の家では飲み水は、自家製の濾し器(写真⑰)で濾して使い、風呂はそのまま使用していました。風呂に入れるのも、井戸から離れているので、つるべからバケツに取り風呂まで運んで



写真⑰ 濾し器

入れたものです。

濾し器は長く使っていると砂や消し炭に鉄分が付着し、濾す時間が長くなりチヨロチヨロしか出なくなるので、時々砂や消し炭など新しい物と取り替える必要があります。『かめ』は昔は醤油屋さんが使っていたものでそれを貰ったもの。井戸(つるい(釣井))と言っていたのは、『つるい替え』と言って一年に一度、夏に大掃除をしていて、丸い壁についた汚れをタワシで洗い、底の砂を綺麗な砂に取り替えていました。

また、井戸水は夏・冬温度があまり変わらないので、夏は冷たく、冬は温かい水を使うことが出来ました。(続く)

